


第18回オーライ！ニッポン大賞 受賞者の概要(12団体・者)

No.	都道府県 市町村	受賞者名	概要
オーライ！ニッポン大賞グランプリ(内閣総理大臣賞)			
1	福井県 坂井市	一般社団法人 竹田文化共栄会	<p>明治時代、豊富な山林資源を活かして、木炭の生産や銅山により栄えていたが、地場産業の衰退により徐々に人口が減少。苦渋の決断の結果、明治6年開校の簡文小学校(後の竹田小学校)を地区住民の総意により廃校としたが、地区全体のまちづくりを推し進めるため「竹田の里将来ビジョン」を策定。グリーンツーリズム(廃校となった竹田小学校と丸岡中学校竹田分校はリノベーションを経て体験型宿泊施設「竹田農山村交流センターちくちくぼんぼん」)や県内外の大学生が空き家を拠点として活動。地区住民と行政が連携しながら地域課題を解決する活動「竹田Tキャンプ」により、ただの訪問者と受入先という関係を越えた、地縁でも血縁でもない絆(第3の縁)が育まれている。</p> 
オーライ！ニッポン大賞			
2	栃木県 栃木市	特定非営利活動法人 自然史データバンク クアニマnet	<p>なぜ生物多様性の維持管理が必要なのかを次世代を担う子どもや市民に体験を通じて教えてくれる団体。自然史資料の収集・蓄積と、それに基づいた環境学習や自然体験、野生鳥獣の管理、生物多様性の維持の活動を行っている。毎月第2土曜日は、親子で森林資源と生物多様性からもたらされる生態系サービスを実感してもらうために、間伐材でログデッキやテーブル、ベンチなどを一緒に作成しつつ耕作放棄地を再生し有機肥料のみで育てた野菜や小麦粉を使ったアウトドアクッキングを楽しみながら森で過ごす。第3土曜日は里山の生き物たちを親子で調査を実施。9年に渡り四季を通して生き物を記録し採集した昆虫やカエル、時にはヘビなども子どもたちがスケッチをし、生き物マップを製作している。</p> 
3	静岡県 沼津市	もと 元沼津市地域おこし 協力隊 青山沙織	<p>深海魚は一般的に価値が低いと見なされ漁師の収入も多くなく、深海魚漁師になりたい若者達もいない。日本で最も深い湾の駿河湾は深海魚の宝庫。その深海魚の魅力と沼津市戸田をPRL深海魚を身近に感じてもらう仕組みを作ることが必要と考え、「駿河湾の深海魚アートデザインコンテスト」を開催。さらに漁師・戸田漁協の協力の下、「生きた深海魚の展示」を行なう事が出来た。他にも「深海魚フェスティバル」などの深海魚づくしのイベントを地域の方と一緒に作り上げたが、新型コロナウイルスの影響により全て中止。地域を盛上げるイベントに変わり、深海魚を船から直接買取り、その日のうちに発送する「深海魚直送便」をスタートさせた。鮮度の良い深海魚は、スーパーで買うより安く鮮度の良い状態で購入できると大人気となっている。</p> 
4	三重県 鳥羽市	有限会社 兵吉屋	<p>海女である社長の実母が海女小屋を開放し、海女さんとふれあう海女小屋体験を日本で始めて開始した。海女小屋は3000年もの昔から命がけの素潜り漁でアワビ、サザエ、ワカメやヒジキ等の海藻を獲り、生業を立てる海女が冷え切った体を温め仲間と談笑する憩いの場所。海女小屋体験は国内外からの往来を盛んにし、お客様と海女さんが一体となって喜びや幸せを感じる価値の共創の場となっている。鳥羽市には約500人と、日本一の海女の数を誇っているが、海女も高齢化、後継者不足により減少しており、海女文化を後世に残すために漁業と観光の融合による国内外の人々との交流の機会を増加させ、海女の働く場と海の資源を守り育てる活動を推進している。</p> 
オーライ！ニッポン大賞 審査委員長賞			
5	東京都 渋谷区	特定非営利活動法人 サービスグラント	<p>プロボノとは、職業上のスキル・経験等をボランティアとして提供し、社会課題の解決に成果をもたらすこと。ふるさとプロボノは、大都市圏のビジネスパーソンやクリエイターなどが、農山漁村など地域コミュニティの課題解決や地域経済の自立を応援する地域交流型プログラム。関係人口をいかに増やし、経済活動をどう維持展開させていくのかなど、地域の課題解決に取り組む行政機関、企業、協会、NPO法人、住民自治組織など多様なプレーヤーと参加者チームのマッチングを行い、具体的な成果物の提供を通じて地域づくりを応援している。空き家オーナーの応募が予定の3倍になる、米づくりを進める地域では、米粉商品の売り上げが伸びる等の成果を発揮している。また参加することで、農山漁村への交流・移住・定住への関心も高まる効果も出ている。</p> 
	山梨県 丹波山村	NPO法人 小さな村総合研究所	<p>全国の小さな村と連携して、里山暮らしの情報発信と都市との交流事業の企画立案や里山ビジネスの調査研究により交流人口の拡大、移住・定住の促進、地域資源を活かした起業の支援等を行なおうと2017年に村民有志11名で設立。交通空白地に認められた国の制度を活用し、ボランティアドライバーによる有償タクシー【ソナク】を運営し村内の高齢者等、年間200名を超える利用者がある。丹波山村から運営委託を受け、2020年2月東京都大田区・JR蒲田駅ビルに情報発信と協働相談窓口のオフィスを構え、4月から人口の少ない7つの村(北海道音威子府村、福島県檜枝岐村、山梨県丹波山村、和歌山県北山村、岡山県新庄村、高知県大川村、熊本県五木村)と【小さな村g7ショップ】での特産品も販売。</p> 
7	兵庫県 神戸市	NPO法人 Peace & Nature	<p>2003年に代表のバハラム・イナナルが活動を開始、2006年にNPO法人化。神戸をベースに、日本人と外国人が共に活動する国際NPO法人。子どものアレルギーの解決方法として農薬を使わない農業塾を行う。食と環境づくりの大切さを学び、環境活動の一環として、有機農業と森の活動を開始した。自然から学び、地域や社会の課題を知り、解決に向けて行動する人材である「未来のグリーンリーダー」の育成のために国内外の子どもたちの健全育成と農山村の活性化と都市と農村の交流を促進している。平和で自然環境に恵まれた地球の創造に寄与する活動には、現在38ヶ国450名、39法人が在籍・参加しバイリンガル(日・英)で日本での活動を世界へ発信している。</p> 
裏面に続く			

オーライ！ニッポン大賞 審査委員長賞

8	山口県 周防大島町	ロコネクト合同会社	<p>オンラインを使ったイベントを実施している。新型コロナウイルスにより、旅行をしなくてもできない人たちと、今は観光交流客の受け入れができなくてもオンラインで物販やPRをしたい島をつなぐ「Webで島旅」を開催。全国の島で暮らす仲間に声をかけ多数の島が参加。大好きな島へ旅することはできなくても、全国の島からの同時配信により、今までなかった全国の海を見る・島旅を提案できた。また、全国移住フェア(大阪)開催中止で対面の移住促進PRができなくなった地方自治体にも呼び掛け、オンライン全国移住フェアをこれまで3回開催。第1回の5月31日は、38道府県138団体、173組の相談者が参加し、宣言解除後には相談者は各地を訪問し、移住に結び付いている。</p>	
---	--------------	-----------	--	---

オーライ！ニッポン ライフスタイル賞

9	北海道 北竜町	寺内 昇・郁子 てらうち のぼる いくこ	<p>町のイベント、農家の栽培、町民の話等の取材を重ねてWEBサイトから特集記事発信している。昇が撮影・編集・サイト管理、郁子が取材・文章作成・写真選択・デザイン関係を担当している。地域おこし協力隊員、北竜町集落支援員、現在も町の情報発信を担う。移住して11年。53歳の時に夫は医師からアルツハイマー型認知症を告げられ、仕事を激減させたところ記憶力・判断力は飛躍的に改善。その頃、他の若年認知症の家族4人が北竜町に移住し元気に生活されていることを知り、自分達も移住。毎年開催される「ひまわりまつり」の開花状況を毎日撮影し、全国に向けて発信、生産者や関係者の北竜町への熱い想いも伝え、全国的に認知度が高まり、ふるさと納税額は5年間連続3億円超、2020年には6億円に達した。現在は、「認知症は否認」という、北海道専門医の診断書に基づき活動中</p>	
10	秋田県 仙北市	門脇 富士美 かどわき ふじみ	<p>20代の頃、留学先の中国で自分の国、故郷について熱く語るルームメイトに対し、何も語れない自分に気づき、故郷や家業を知ろう、地に足のついた生き方をしようと秋田に帰郷した。その後、中山間地域の小規模農家ではあるが、両親と共に農業(ほうれん草栽培)、1998年から宿泊業、2002年から菓子製造業を組み合わせることにより、条件不利地域ながら専業農家として、豊かでなくともそれなりの暮らしをすることを目指してきた。現在は、仙北市農山村体験推進協議会の副会長として、市内の他の農家民宿等とも協力して、個人から団体まで多くの旅行者の受け入れやNPO法人秋田花まるっグリーンツーリズム推進協議会の理事長も務め、秋田県のグリーンツーリズムの推進にも力を入れている。</p>	
11	千葉県 匝瑳市	高坂 勝 こうさか まさる	<p>経済成長を目指さずとも、幸せになれるライフスタイル論・ナリワイ論を実践。バブル経済破綻後、根拠の無い売上や利益追求の心労により30歳で退職。お金で消費しなければ何も得られない自分を省みて放浪。石川県に移住後、料理を習得、独学で行き詰まった経済・政治・社会・環境などの課題解決への道を自主研究、34歳で池袋にOrganic Barを開業。必要以上儲けないビジネスを確立し、売上が上がる度に休みを増やし、米の自給をすべく千葉県匝瑳市に通う二拠点生活に移行。店のお客も米作りに参加するようになり、2011年週休3日、2018年にBarを閉じ完全移住。著書『減速して自由に生きる～ダウンシフターズ』や様々なメディアで発信、お店や田んぼを通じて交流した数千人が生業や就農や地方移住へと歩いていった。</p>	
12	愛媛県 宇和島市	水野 裕之 みずの ひろゆき	<p>人口800人、柑橘と漁業が主な産業、60歳以上の人口が7割を超える九島の地域おこし協力隊に採用され、2018年家族3人で移住した。夫婦で島唯一の飲食店、島を体験するごはん屋さん「nico」を営業している。約10年間空き家だった場所を自身でリノベーションした。島民の思い出の場所でもあった空き家は、子どもの頃の遊び場でもあったお年寄りが遊びに来てくれる場所にもなった。学生時代にはパッケージデザインコンペに入賞し、大手リゾート会社に就職。小浜島、裏磐梯、嵐山と転動し、そこでしか味わえないモノの価値に気づく。いずれは料理店を開きたいと思っていた思いを実現した。「ニコニコ」、ここに来たら笑顔になってほしい。「日光」、太陽のような温かい場所になりたい。島民にとっても島外のひとにとっても、だれもが笑顔で戻ってきたくなる場所をめざしている。</p>	